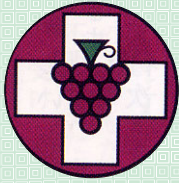


総主題 虹の架け橋を見上げて

副主題 平和、寛容、多様性へ

日本福音ルーテル教会
女性会連盟



会報

26期 171号

2025年10月20日発行

わたしは雲の中に虹を置く。
これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。

創世記 9 章 13 節



多様性の中でこそ福音は分かち合われる

日本福音ルーテルむさしの教会

牧師 李 明生

この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。

人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。」

どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。(使徒言行録 2:6-8)

今年 1 月 14 ~ 21 日、アメリカ福音ルーテル教会 (ELCA) 主催の第 12 回アジア・ルーテル国際会議 (Asian Lutheran International Conference = ALIC) がマレーシア・コタキナバルにて開催され私も出席しました。この会議は ELCA がアメリカ国内でのアジア系住民への宣教のために、アジアのパートナー教会との協力を進めるための会議として 1999 年に始まり概ね 2 年に一度、開催されて来ました。回を重ねると共に、米国内での宣教だけでなく、アジアにおける ELCA のカウンターパートナーと共通の宣教課題を学び、相互の繋がりや協力関係を確かめる場へと変化してきました。

今回は「Lift Every Voice」(全ての声をあげよう) をテーマに、アメリカそしてアジアの各地での「小さな声」「声なき声」をどのように受け止め、その声を伝えていくことが分かち合われました。この会議のプログラムの一環として、コタキナバルにあるサバ神学院 (STS) を訪問し、校長の Thu En Yu 先生より女性会連盟からの長年に渡る学生への経済支援に対する感謝の言葉を頂きました。多民族国家であるマレーシアは、国教はイスラム教ですが、それぞれの信仰も認められている多宗教国家でもあります。イスラム教約

60%、仏教約 20%、ヒンズー教 6 % という各宗教別の人口構成は、それぞれマレー系、中国系、インド系の民族構成にほぼ対応、この他に約 9 % がキリスト教徒となっています。その背景には、マレーシアではイスラム教徒から他の宗教への改宗の許可を得ることがほとんど不可能であるということ、また宗教がナショナリズムと結びつくことで民族間の対立が煽られていること、地域ごとに宗教人口の割合は大きく異なっていることなどの、複雑な事情があります。

比較的马レー系住民が少ないサバ州では、キリスト教は異なる言語を用いる様々な民族的背景を持つ人達に受け入れられてきました。そのような中でサバ神学院はルーテル教会にルーツを持ちつつ、様々な教派の、様々な領域での働き手を送り出すために、公用語であるマレー語の他に、中国語 (マンダリン)、英語での講義を開設し、地域の文化と生活に根ざした宣教のあり方を模索しています。十字架の出来事の後に残された弟子達は、聖霊降臨の出来事では様々な言語で福音を語り始めました。それは主イエスの福音が伝わるための語り方の一つではないことを示しています。そしてまた、多様な伝わり方をすることによって、初めて弟子達は福音を誰かに分かち合うことが出来たのだ、ということでもあります。そのようにして分かち合われた福音は、さらに多くの人々を励まし支える力となっていくことを聖書は語ります。

今世界のあちこちで、排他主義・排外主義を叫び対立を煽る声が大きくなりつつあります。しかし多様性の中でこそ主イエスの福音が分かち合われることを聖書から聴いてゆきたいと思います。